

# 川越町の子どもたちの学力向上に向けて

## ～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和5年 10月24日

川越町教育委員会

川越町立川越北小学校

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越北小学校では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な指導に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

### 1. 学力・学習状況調査結果



#### (1) 各教科結果

□全体の傾向

##### 国語

全国比（全国平均正答率）を上回っており、正答数分布グラフから中央値（※1）が全国より1.0ポイント高くなっている。

評価の観点（※2）別に見ると、「知識・技能」の項目は5.3ポイント、「思考・判断・表現」の項目は5.4ポイント、全国比を上回っている。

学習指導要領の内容（※3）別に見ると、「話すこと・聞くこと」の項目は6.8ポイント、「書くこと」の項目は8.8ポイント、「読むこと」の項目は2.9ポイント全国比を上回っている。

##### 算数

全国比を上回っており、正答数分布グラフから中央値が1.0ポイント高くなっている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」の項目は5.8ポイント、「思考・判断・表現」の項目は7.8ポイント、全国比を上回っている。

学習指導要領の内容別に見ると、「数と計算」の領域で6.2ポイント、「図形」の領域で5.4ポイント、「変化と関係」の領域で4.1ポイント、「データの活用」の領域で9.9ポイント全国比を上回っている。

※1 中央値

小さい数値（あるいは大きい数値）から順に並べたときに真ん中に来る数値

※2 評価の観点

学習指導要領において、児童生徒が学校教育の中で身につけるべき力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に対応した形で評価する際の3つの観点

○「知識・技能」・・・各教科で身につけるべきとされている知識やスキル

○「思考力・判断力・表現力」・・・課題や問題に向き合って解決していく力や友だち

- と協働しながら問題解決の糸口を見つけていく力、自らの思いを表現していく力  
 ○「主体的に学習に取り組む態度」・・・児童生徒自身がいかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているか

※3 学習指導要領の内容

学習指導要領において、各教科に求められる内容。例えば小学校国語科であれば「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など、小学校算数科であれば「数と計算」「図形」「変化と関係」などに分かれている。

□設問別結果から見える各教科における主な「強み」と「弱み」

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<p>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(＋12.9)</p> <p>◎漢字を文の中で正しく使うことができる。(＋15.6)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(＋10.9)</p> <p>◎目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(＋15.3)</p> <p>◇情報と情報との関係付の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(－10.7)</p>
算数	<p>◎一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる。(＋8.7)</p> <p>◎正三角形の意味や性質について理解している。(＋14.6)</p> <p>◎示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。(＋19.6)</p> <p>◎加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。(＋11.8)</p> <p>◎百分率で表された割合について理解している。(＋5.3)</p> <p>◎棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を使って記述できる。(＋21.4)</p> <p>◎二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。(＋9.1)</p> <p>◇(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。(－2.9)</p>

## (2) 児童質問紙による生活調査結果

### ① 基本的な生活習慣

Q：朝食を毎日食べていますか。

・食べている児童の割合・・・全国：93.9% 川越北小学校：93.4%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・全国：81.0% 川越北小学校：82.9%

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・全国：90.5% 川越北小学校：93.5%

**\*本校では、就寝時刻や起床時刻が大きく乱れている児童の割合は全国と比べても少ないが、朝食を食べずに登校している児童の割合は高くなっている。**

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活リズムを整えることが大切である。

### ② 自己肯定感

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・ある（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：83.5%

川越北小学校：88.1%

Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・思う（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：89.8%

川越北小学校：97.4%

Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

・思う（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：95.9%

川越北小学校：97.4%

**\*「あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問での肯定回答は、全国割合を大きく上回っており、97.4%となっている。児童の自己肯定感を育むために、学校教職員が多くの児童に対して個々を認める声かけをし、その声かけが児童に届いていることが伺える。自分にはよいところがあると思っている児童の割合は、全国より高くなっている。自己肯定感が高まっている児童は、自己を大切にすることができるとともに他者を大切にすることもできる。そのため、人の役に立つ児童の割合が全国より高くなっているのだと考える。**

### ③ 地域や社会に関わる活動の状況

Q：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

・参加していると答えた児童の割合・・・全国：57.8% 川越北小学校：79.0%

Q：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

・思っていると答えた児童の割合・・・全国：76.8% 川越北小学校：88.1%

**\*地域の行事に参加している児童の割合は全国より高く、地域に児童が根付いて生活していることが伺える。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童の割合も全国より高く、児童が地域に対して感謝の気持ちを持ち、地域のために主体的に行動したいという思いを持っていることも伺える。**

### ④ 学習習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国57.1% 川越北小学校：64.4%

Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
(学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む)

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国52.5% 川越北小学校：51.3%

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

・している(ときどきも含む)児童の割合・・・全国：70.7% 川越北小学校：84.2%

\*平日の学習時間では、1時間以上家で勉強している児童の割合は、約64.4%で全国を上回っており、平日は家庭学習の習慣が身につけている児童が多い。しかし、学校が休みの日の学習時間では、1時間以上家で勉強している児童の割合は、全国よりも低い結果となった。休日は家族との時間を大切にしていることや地域の行事等に参加していたりすることが影響しているのではないかと考えられる。自分で計画を立てて勉強しているかの問いでは、肯定回答をした児童の割合は約84.2%となっており、全国を上回っている。学校で取り組んでいる「家庭学習習慣の確立」等により宿題以外に自主的に学習を進める習慣が身につけていると考えられる。

### ⑤ 読書習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：37.3% 川越北小学校：39.5%

・読書を全くしない・・・全国：24.5% 川越北小学校：25.0%

Q：読書は好きですか。

・好き(どちらかといえばも含む)と答えた児童の割合・・・全国：71.8%

川越北小学校：80.3%

\*平日の学校の授業時間以外に読書時間では、30分以上読書をしている割合は約39.5%となっており全国を上回る結果となった。また、児童の約25%は学校の授業時間以外に全く読書をしないことが分かった。今後も授業以外の場面で児童の読書活動推進に向けて、学校図書館の効果的な利用法や家庭読書推進の啓発に向けての取組を継続していく。また、読書が好きと回答した児童の割合は約80.3%となっており、全国を上回っている。

### ⑥ キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・持っている(どちらかといえばも含む)と答えた児童の割合・・・全国：81.5%

川越北小学校：85.6%

\*将来の夢や目標を持っている児童の割合は85.6%となっており、全国を上回っている。コロナ禍において児童に将来の目標や夢を持たせられるような取り組みが少なくなっていたが、コロナ禍においても実施可能な方法を探りながら取り組みを進めてきたことが結果につながったと考える。

## (3) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

### ① 言語活動の充実と自分の考えを深め、表現する力を育成する取り組み

自分の考えを深め、表現する力を育成するために「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して、本校では89.4%の児童が肯定的な回答をしている。また、「授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしている。指導者が学習指導要領に示された子ども達につけるべき力を意識したうえで、ねらいを持って意図的に授業の中で話し合い活動等に取り組むようにしている。

今後も子ども達に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課

題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むために各教科等の中で、ねらいをもった書く活動、話し合い活動等を進めていく必要があるととらえている。

## ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とICT機器の効果的活用

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いに対して、本校では、肯定的な回答をしている。また「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしている。学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してこれからも授業改善を進めていく必要があると考えている。また、児童質問紙にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対しては88.2%の児童が肯定的な回答をしている。子どもたち自身が、授業の中で、「何を学ぶか」が明確になっており、授業のふりかえりをとおして、次の学習の意欲につなげているのだと考えられる。今後も川越町が大切にしている「めあてとふりかえりのある授業」を実践し、子ども達が「何を学ぶのか」という学習の目的意識をはっきり持ったうえで、授業に臨み、「どのように学ぶのか」を意識させた授業改善を進めていく必要があると考えている。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一人一台タブレット端末は一つのツールとなっている。児童質問紙にある「これまで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という問いでは週3回以上と回答した割合が、本校では75%となっており、全国を大きく上回っている。さらには、児童質問紙にある「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いに対する肯定回答は、96.1%となっており、児童生徒自身もICT機器の学習効果を実感しているように思う。しかし、「教職員と児童生徒のやり取りの場面」や「児童生徒同士がやりとりする場面」での活用頻度に対する問いに対しては、「週1回以上」と回答する学校も見られ、今後も教職員のICT活用に関する研修会を行い、どのような場面で、どのように活用することがより効果的な活用になるのか等研修を深めていく必要があると考えている。

## ③ 自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

「これまでに学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という問いに対して、本校は肯定的な回答をしている。一方、児童質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに88.1%の児童が肯定的な回答をしている。

学校教育活動において自尊感情の育成には、個々の児童が学習の場面において「できた」「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考えている。今後も個々の児童と向き合いながら、一人ひとりの頑張り、良い点、可能性を適切なタイミングで伝え認めていくことが大切だと考えている。

## 2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



### 全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、「何を学ぶか」という必要な指導内容だけでなく、「何ができるようになるか」を重視し、そのために「どのように学ぶか」という学習過程を大切に授業改善を進める。

1. 「めあての提示と振り返る活動」(目標の提示、振り返り活動)のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の見通しを持ち、授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。
3. ICT 機器の効果的な活用を探り、授業改善を行う。
4. 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力をつけるための指導を行う。
5. 一人ひとりの学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

## 国語

### 1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・漢字の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。
- ・朝学習の時間を活用し、基礎基本問題に取り組む。

### 2. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書こうとする気持ちを高める手立てを講じ、児童が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。(国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく)
- ・自分の考えを文章として書く際には、自分の考えの根拠となることを明らかにしながら書く活動を取り入れていく。
- ・文のつながりや文末表現など必要に応じて添削し、適切な表現方法の定着につなげる。

### 3. 読む力を育成する指導の充実

- ・小学校低学年段階での MIM-PM の取り組みを継続して行い、「読み」に対して苦手感を感じている子どもに、早期に指導を行えるようにしていく。
- ・説明文においては、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけられるような指導を行えるようにしていく。
- ・物語文においては、音読を大切にし、言葉、文、挿絵に注目し想像を広げながら自分の考えがもてる指導を行えるようにしていく。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

### 4. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示し、条件を与えて書かせたり、低学年には書き方の型を示して取り組ませたりする。
- ・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとして ICT 機器の効果的な活用を進めていく。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

## 算数

### 1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

### 2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、児童が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
  - ・既習事項をもとにした応用問題等に取り組ませ、子どもたちが学び合う中で、その解決方法を見い出せるような学習活動を取り入れる。
  - ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けて考える授業を取り入れる。
  - ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
  - ・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。
3. 自分の考え方や求め方を説明する
- ・算数用語、算数的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
  - ・ICT機器を効果的に活用し、個々の児童の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。



### 3. 川越北小学校の取り組み

#### (1) 豊かに学ぶ授業に努めます！

「子どもらしさ」を大切にします。授業の中で、他者と関わり、多様性を認めながら、自分の考えを深めたり、広げたり、強めたりすることを大切にして豊かな心の涵養を目指します。

#### (2) 学び合いを大切にします！

子どもたちは、授業の中で互いの考えを聴き合い、考えを広げ、新たな気づきを生み出しながら学んでいきます。子ども同士が関わり合えるようペアやグループでの活動を取り入れます。なかまと共に考え、課題を解決していく学習を展開します。

#### (3) 基礎的・基本的な知識技能の確実な習熟をはかります！

漢字の読み書きや四則計算など学習を進める中で学習の基礎基本となる力を授業の中で扱うことはもちろんのこと、定着を図るために家庭学習や朝学習を使い、低学年のうちから確実に身につけさせていきます。

#### (4) 家庭学習を充実させます！

「家庭学習の手引き」をもとに、子どもたちに自ら学ぶ習慣が身につくよう指導します。また、学期ごとに「家庭学習チャレンジ表」を使って学習時間・学習内容の改善に役立てます。

#### (5) 全国学力調査・みえスタディチェック・CRT テストの分析と検討を授業づくりに活用します！

実際に出題された問題を教員が回答し、求められる学力を把握するとともに、児童の調査結果を分析することで子どもたちにつけなければならない能力を把握し、各学年の段階でつけるべき力を明確にしたうえで授業を行います。

#### (6) 教職員の資質向上に努めます！

学び合いが活発になる授業展開を工夫し、授業研究に取り組みます。子どもたちの強み・弱みを把握し、思考力・判断力・表現力が身につく授業展開を工夫します。日々の授業を互いに見合い、検討を重ねます。また、わかる授業が行えているか、授業研究を通しての検証を行い改善をはかります。

## 4. 町教育委員会による手立て

### (1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

### (2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

### (3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各校の学力向上に向けた取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

### (4) 校内研修等への訪問指導・支援

三重県教育委員会北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

### (5) ICT 機器を効果的に活用した授業の推進

ICT 機器を活用して、指導者と子どもたち、子どもたち同士が意見や考え方を交流しあう場面を作り上げ、主体的・対話的な授業の実現を目指します。また、ICT 機器の研修会等の校内研修への指導・支援を進めます。

### (6) 家庭学習習慣及び読書活動の推進

各家庭での TV 視聴やゲームをする時間を振り返り、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行」や「家庭読書の日」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

### 『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2022年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、  
「非認知能力を高めること」  
「個性を大切にすること」  
「相手の個性を尊重すること」 を大切にし、教育活動を行います。



## 5. 家庭・地域へのお願い

### (1) 基本的な生活習慣を定着させる

夜の就寝時刻が乱れてくる原因の一つにテレビやスマートフォンの視聴時間が考えられます。家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。ま



た、作っていただいたルールが守られているかどうかを見届けてください。夜の就寝時刻が乱れてしまうと朝の起床時刻にも影響し、すっきりとした目覚めができなくなってしまいます。また、そのため朝食をしっかりと食べずに登校してしまうこととなります。朝食は午前中を元気に過ごすための大切なエネルギーのもととなります。

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活が送れるようにしていきましょう。

## 生活リズムに大切な睡眠

人の成長に大切なホルモンの分泌には、生活リズムが関係します。特に大切なのが、早寝早起きと十分な睡眠時間。

小学生なら1日9時間の睡眠を！  
夜10時には熟睡できていること。

睡眠不足や不規則な生活リズムが続くとイライラ、だるい、集中できない



目が朝の光を感じるとセロトニン(脳内物質)が分泌され、脳と体を目覚めさせ、こころのバランスを整えます。昼間に体を動かしてセロトニンが多く分泌されると、夜にはメラトニン(脳内物質)がたっぷり分泌され、ぐっすりとお眠ることができます。

## 朝ごはんは大切なエネルギー！

朝起きたときは体も脳もエネルギーが不足した状態です。よく噛んで食べることで体と脳がめざまめます。

家族と一緒に食べると、話も弾み、一日の活動のエネルギーに！



脳のエネルギーはブドウ糖！  
(ご飯やパンなどの炭水化物が分解されてできる栄養素)

(引用元：三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課発行「みえ家庭教育応援リーフレット」より)

## (2) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

### 【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけてから勉強する。

《保護者》

- ・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でルールをつくる。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

### (3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「11%程度の児童生徒が、自分には良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切に、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

#### 【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

### (4) 家庭で読書をする時間を増やす・・・親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。また、おうちの方が読まれた本やお気に入りの本を子どもに紹介し、本に対する興味を持たせるようにしていきます。

### (5) 子どもたちの『豊かな心』の育成に向けて、五つの「SHOW」で子どもと関わりましょう。

五つの「SHOW」は子どもに接する時の心得ですが、同時により良い生き方のモデルを子どもに見せることにもなります。五つの「SHOW」を心掛けた関りを通して、保護者も子どもも「非認知能力（数値では測れない能力）」を高めながら『豊かな心』を培いましょう。

#### SHOW1：コミュニケーション能力を高めましょう

コミュニケーション能力は、自主性・表現力・理解力・共感力・協調性などにつながります。そこで、ご家庭でも豊かな会話によるコミュニケーションを心がけましょう。

#### SHOW2：待ちましょう

子ども自身で考える力を育てるためにも、できる限り自分で考えて行動できるように待ってあげてください。子どもの意欲、自主性、自立性などにつながります。

#### SHOW3：疑問をもつように誘いましょう

普段の生活の中で「どうして〇〇は□□なのかな？」「なぜ、△△なのかわかる？」と問いかけることも興味・関心を育てることにつながります。また、子どもの疑問には、ていねいに根気強くつきあいましょう。

**SHOW4 : 思いやりにつながるように、家庭内のルールづくりをしましょう。**

家庭内のルールづくりは、子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

**SHOW5 : 感情に任せた暴言は、やめましょう。**

状況により、どうしても叱らなければならない場合もありますが、とっさに言い返したりするようなことは絶対にやめてください。その時は「6秒以上の間深呼吸」などのアンガーマネジメント、すなわち怒りをコントロールし、子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をしましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

